

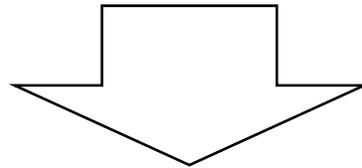
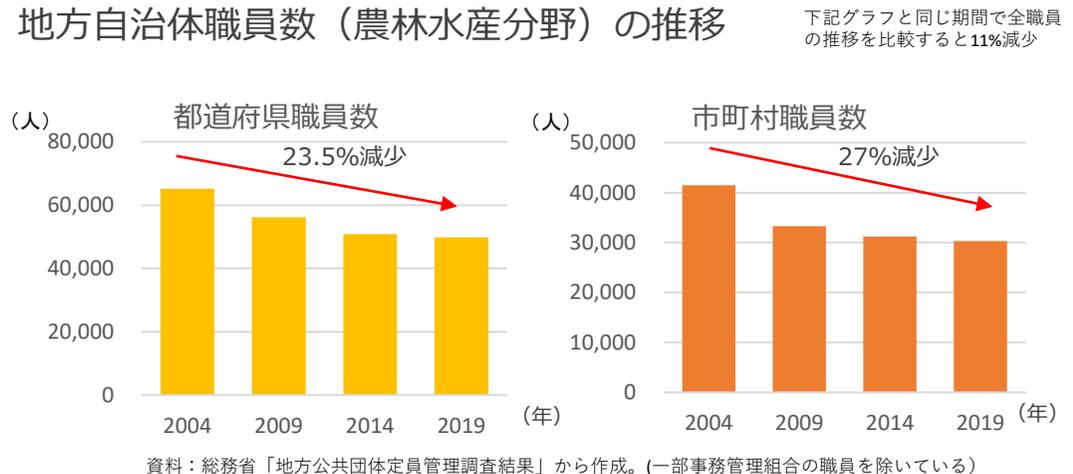
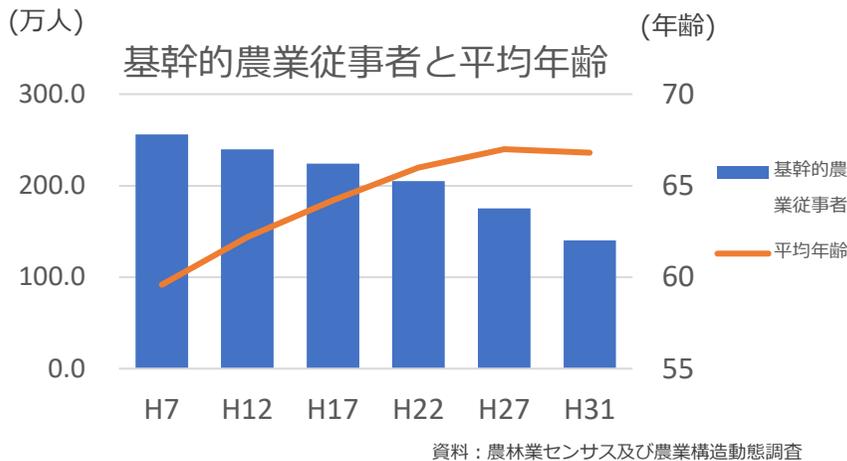


eMAFFによる行政手続のオンライン化の実現

農林水産省
大臣官房デジタル戦略グループ

背景と目的

- 農業現場では、
 - ・ **農業従事者の高齢化や労働力不足**（経験と勘だけの農業では先々不安）
 - ・ **地方自治体の農政担当職員の減少**（補助金等の手続に追われ本来業務ができない）



- 農林水産省所管の**行政手続の抜本見直し・オンライン化などDXの取組を進める。**
 - ・ **農林漁業者は、自らの経営に集中**（デジタル技術・データを活用して付加価値を高める経営）
 - ・ **地方自治体等の職員は、農政推進・担い手農業者の経営のサポートに注力**
 - ・ **農林水産省は、データに基づく効果的な政策を企画し実行**

行政手続のオンライン化の背景

情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律（平成14年法律第151号）では、行政のあらゆるサービスを最初から最後までデジタルで完結させるために不可欠なデジタル3原則を基本原則として明確化するとともに、国の行政手続のオンライン化実施を原則としている。

（デジタル3原則）

①デジタルファースト

個々の手続・サービスが一貫してデジタルで完結する。

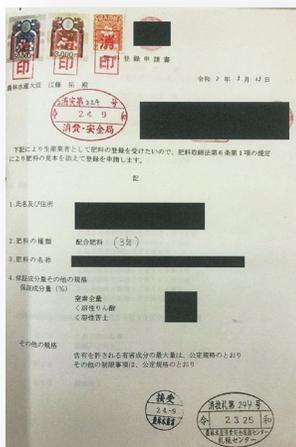
②ワンスオンリー

一度提出した情報は、二度提出することを不要とする。

③コネクテッド・ワンストップ

民間サービスを含め、複数の手続・サービスをワンストップで実現する。

農業者等が申請する補助金等の手続きに係る資料の例



手数料納付のための
押印、収入印紙の貼付

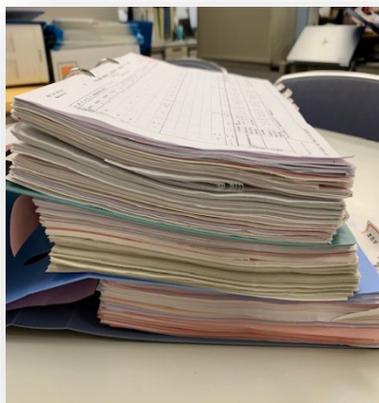


約50cm

ある交付金の申請手続きにおける添付資料一式の例
(1事業者の申請)



ある補助事業の1年分の
保存書類



共済事故が発生した場合の
事故発生通知、損害通知



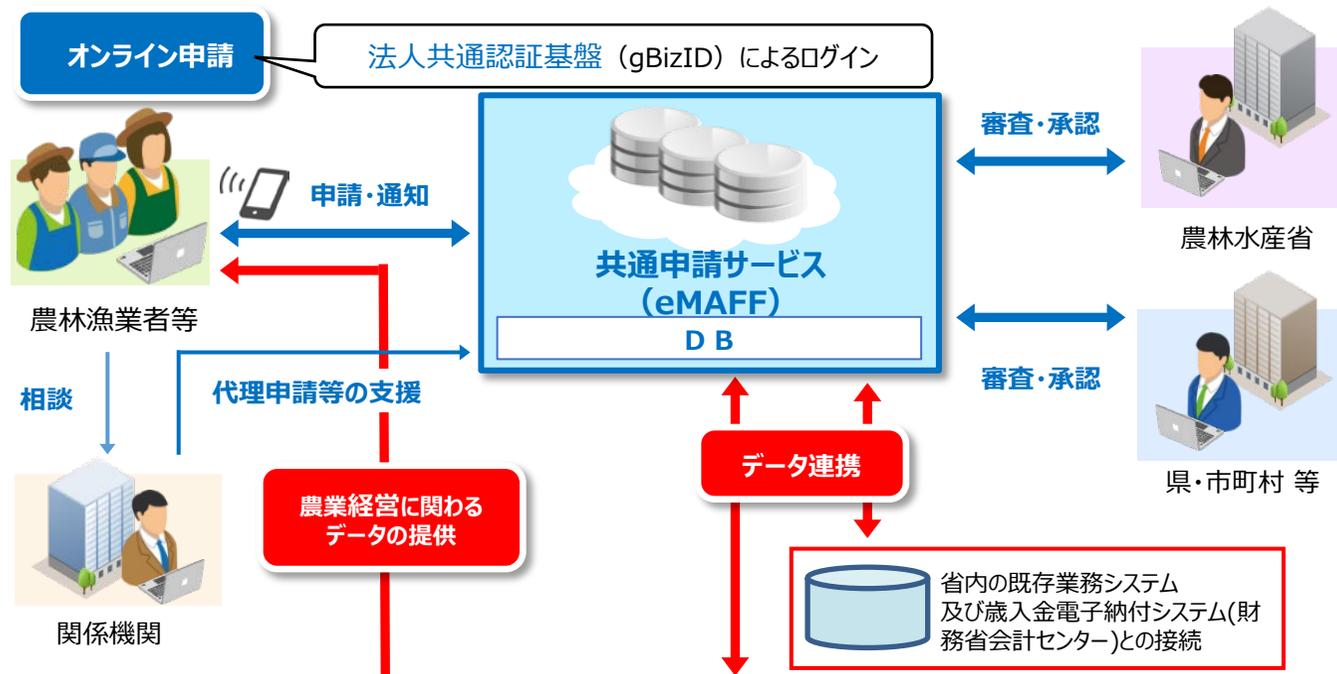
ある事業の進行管理のための会議に
提出された資料



法令に基づく手続きに関する
納付金の申出書

農林水産省共通申請サービス (eMAFF)

- 「情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律」の趣旨を踏まえ、**農林水産省所管の法令に基づく手続きや補助金・交付金の手続き(地方自治体の事務も含む)をオンライン化**。
- 国に対する手続きだけでなく、**地方公共団体で完結する手続きも含めた共同基盤**として開発。LGWANにも対応。
- SaaSを採用することで、申請者等に**統一感のあるUI/UXを提供**。申請・審査の画面は、農林水産省の職員自らが作成。その際、**各手続きの申請・審査の流れ、申請項目や添付書類などの業務見直し (BPR)**を実施。
- 端末操作に不慣れな高齢農業者等に配慮し、関係機関による**代理申請の機能**も装備。
- **令和4年度中に、約3,300の手続きのオンライン実装を完了**。引き続き、新たな制度のオンライン実装、利便性向上のためのUI/UXの抜本的改善に取り組む。



申請者が自身のスマホ、PC等からオンライン申請できる**ワンストップ**はもちろん、ひとつのID/PWで、様々なサービスにログインできる、**シングルサインオン(SSO)**を実現。

申請から審査、承認、通知まで全てオンラインでできる**デジタルファースト**、紙から電子に変わること、一度提出した情報を活用して申請できる、**ワンスオンリー**を実現。

様々なデータを集約し、連携させることにより、**精度の高い分析に基づく政策評価や政策立案**が可能に。

制度担当者が自ら申請画面を構築することで、**開発の手間とコストを削減**。BPRの**契機**にもなる。

eMAFF地図
(農地の現場情報を統合)

- 農地台帳
- 水田台帳等
- 筆ポリゴン

タブレットでの現地確認による効率化

地図、農地区画、気象、土壌、育成予測等の関連データ

農業データ連携基盤
個別事業システム等

eMAFFの構築・活用により期待される効果

農業者は経営状態にふさわしい資金調達ができる

- ・ 本人同意の下、経営データの迅速な提供やスコア化により、事業性評価、動産担保貸付など、担い手が経営状況に沿った柔軟な資金調達が可能に。

農業者は役所に行く必要がなくなる

- ・ 開庁時間や場所に縛られずに申請ができる。
- ・ 各機関間のやり取りをペーパーレス化、印刷・郵送業務を不要に。
- ・ 行政も定型的業務を自動化し、企画立案・コンサルテーション業務に注力できるように。
- ・ 災害時も応援職員が円滑に支援。

農業者は科学的な知見に基づき営農ができる

- ・ データに基づき、研究者・研究機関と現場レベルでの協働が進む。
- ・ ビッグデータを活用した研究成果を基にした精度の高い収穫や需要の予測。

農業者はデジタル技術を活かした経営戦略を立てられる

- ・ 営農戦略に集中できる体制を実現。
- ・ eMAFF地図を活用して、地域内で農地の集積や経営継承について話し合い。
- ・ eMAFFのデータベースに格納したデータを基に経営分析。

地域の農業者と農林水産省と直接意思疎通できる

- ・ データを基に、農業者、各機関と密度の高いコミュニケーションを実現。
- ・ 農業者や地域ごとのニーズをリアルタイムに把握。
- ・ 使った政策の効果がデータでわかり、現場の実態を踏まえた政策立案へフィードバック。

農業者は、いつ、何をどう作り出荷すれば最適かわかる

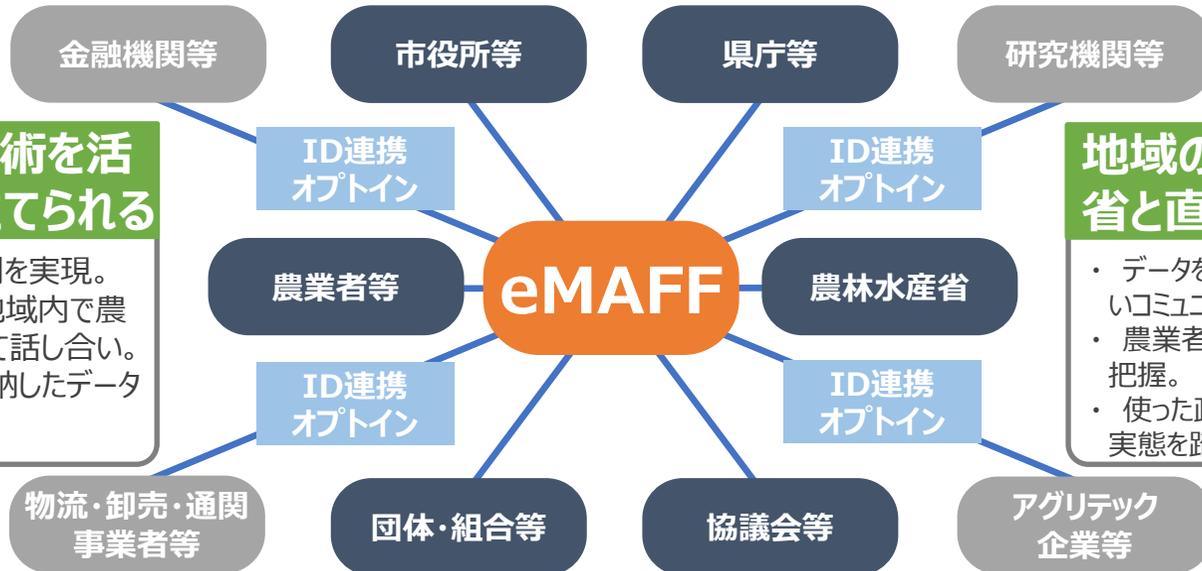
- ・ 生産・流通・小売・輸出まで一貫したデータ連携を実現、リアルタイムの需要に応じた生産・出荷が可能に。
- ・ 農業者の合意のもと、農地を物流用ドローンハイウェイに。生産資材、出荷物等を空輸。

農業者は何度も似た申請をしなくてもよくなる

- ・ 各種台帳の一元化、ワンストップ化。
- ・ プライバシーに配慮しつつ、地図情報の一元化。
- ・ 各機関間でデータ項目が標準化され、相互運用性が向上。

農業者は最新の技術を便利に活用できる

- ・ 市況、リモートセンシング等のデジタル空間のデータと、IoT、収穫量、気象、土壌等の現実空間データを組み合わせた、高レベルなAIが開発される。



eMAFFのトップ画面

現在のご登録者数：19,290人

現在公開されている手続数：5,241件

Wiki | お困りの場合

農林水産省共通申請サービス | eMAFF

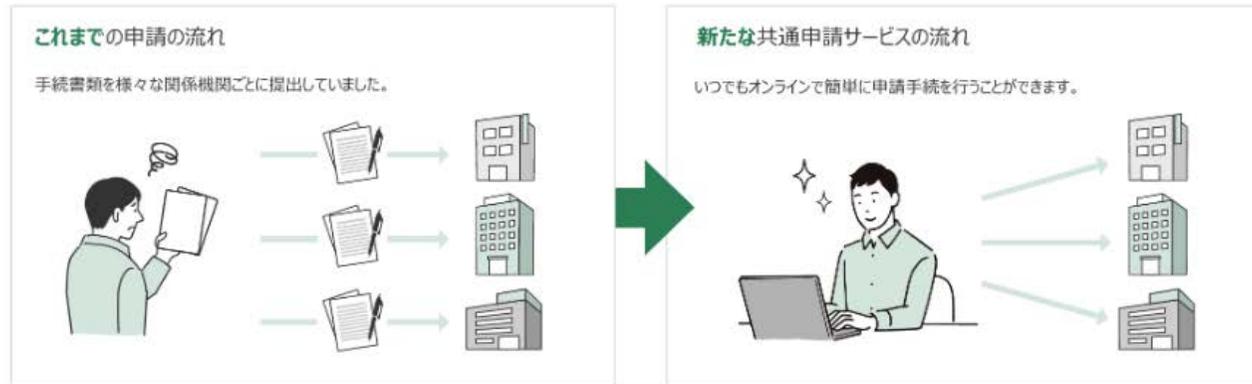
農林水産省に関する各種手続を、インターネット上で行えるサービスです。

gBizIDのメールアドレス、パスワードを利用してログインできます。

eMAFF IDでログイン

[ご登録がまだの方はこちら](#)

農林水産省共通申請サービスとは



農林水産省共通申請サービスのパンフレットは[こちら](#)よりご覧いただくことができます。

[詳しく見る](#)

ご利用開始までの流れ

1 gBizIDの取得

農林水産省共通申請サービスをご利用いただく際には、「gBizID」のアカウントが必要です。

[gBizIDの取得](#)

ご利用開始までの流れ

2 gBizIDでログイン

取得したgBizIDで農林水産省共通申請サービスにログインします。初回ログイン時に、利用規約に同意していただく必要があります。

[gBizIDでログインする](#)

ご利用開始までの流れ

3 農林水産省共通申請サービスを利用する

各制度のマニュアルを参照の上、申請を行ってください。

[操作マニュアルはこちら](#)

(eMAFFのトップ画面)

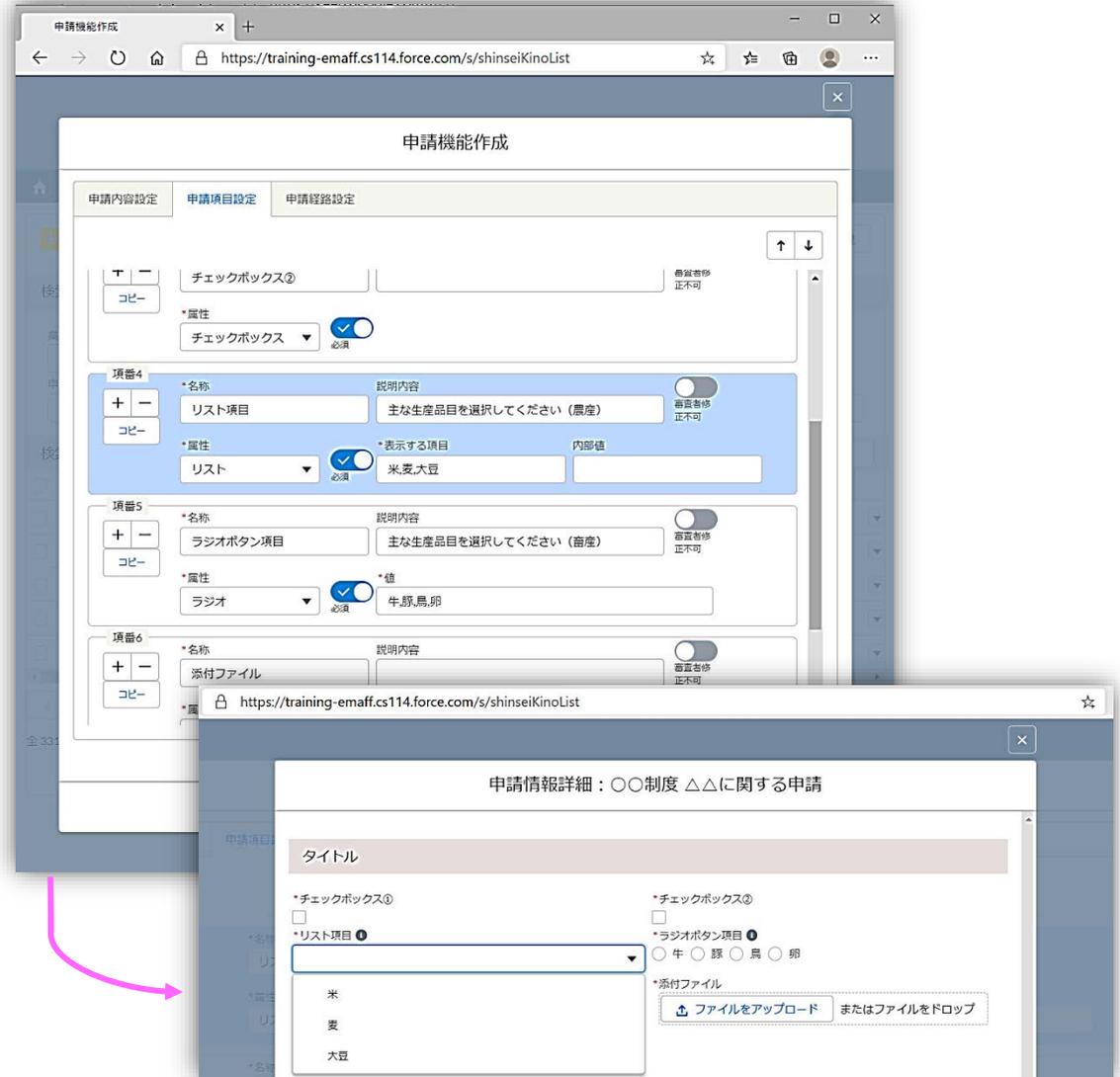
- ・現在のご登録者数、公開されている手続一覧を表示
- ・ご利用開始までの流れ、操作マニュアルを掲載
- ・お知らせ、よくあるご質問、お問合せ先を掲載
- ・利用規約、プライバシーポリシーを掲載

eMAFFの申請者側・制度担当者側画面



(申請者側画面の例)

- ・PC、スマホ・タブレットに対応
- ・過去の申請履歴に基づき、自動記入（ワンスオンリー）
- ・地図からの直感的な入力も可能に



(制度担当者側画面の例)

- ・農林水産省職員自らが画面構築を実施
- ・チェックボックス、リスト、ラジオボタン等の共通パーツを活用